

丸文
2025年3月期 決算説明会
質疑応答（サマリー）

日時：2025年5月16日（金）10:30 - 11:20

場所：丸文本社よりライブ配信

説明者：代表取締役社長 兼 CEO/COO 堀越 裕史

Q：新中期経営計画での目標数値は、これはM&Aなども含めた数字でしょうか。

A：新中期経営計画での目標数値にM&Aなどの非連続成長の数値は含めておりません。一方で、デジタル化、AI、ロボティクス等をテーマに注目して非連続成長機会を追求してまいります。

Q：中計の振り返りの中で、「連結グループ間のシナジーを高めるための施策は課題が残った。新中計で取り組んでいく」とのご発言がございました。具体的に描かれている施策があればお聞かせください。

A：今中期経営計画では、全事業に関連するテーマに対して、各事業部門および関連子会社を含めたグループ全体でシナジーを創出し、深掘りを進めてまいります。事業部門や子会社の保有するリソースを最適に活用するための戦略を策定し、それを具体的な数値目標に落とし込んで実行していきます。例えば、取り組みテーマの一つとして「医用機器」が挙げられます。このテーマは全ての事業に関わりがあり、北信越地域を中心に医用機器を取り扱う当社グループ会社の「丸文通商株式会社」がその中核を担っています。同社は医療分野を主業としており、医療機関を主要顧客として、地域に根差した販売・保守メンテナンスを強みとしています。また、当社が取り扱う装置や機器の保守・メンテナンスサービスを中心に展開する「株式会社フォーサイトテクノ」もグループ内にあります。同社は高い技術力とサポート力を有しており、特にシステム事業との親和性が高いですが、他の事業においてもその保守・サポート機能や技術力を活かし、シナジー効果を発揮できると考えています。今後は、これらの強みを横断的に活用し、グループ全体での価値創出を加速させてまいります。

Q：経常利益100億円達成に向けた成長ドライバーとして最も鍵を握る分野、ポイントはどことお考えでしょうか。

A：経常利益100億円という目標は、あくまで2030年度に向けたアスピレーションとしております。今後の成長を牽引する事業としては、システム事業を中心に据えています。具体的には、医療・ヘルスケア分野および航空宇宙分野を重点テーマとして取り組んでまいります。特に航空宇宙分野においては、近年、政府予算の増額および執行が進んでおり、今後の大きな成長が期待される領域です。